丸子北中学校だより
Carillon times
No.9　R7.6.20
発行：学校長 川口伸哉

【自主 敬愛 勇健】～生徒も教師も生き生きと活動する学校～

＜性の多様性に関する講演会＞　～互いに「違うこと」を認め合っていきましょう～

６月１３日（金）に、１年生と３年生を対象にした「性の多様性」に関する講演会を行いました。講師の先生は、「小泉　涼」さんです。茅野市に在住で、「ダイバーシティ信州」の会長を務められている方です。昨年度も講師としてお招きし、お話をしていただきましたが、内容がとても分かりやすく、ご自身の経験談は深く心に染み入るものであったので、今年度もご講演をお願いいたしました。（現在、学校のみならず色々な団体から講演の依頼があり、お忙しいとのことです）

小泉先生は「ＬＧＢＴＱに関する基礎知識」「社会の動向」「自分自身について」「まとめ」の４点について、資料を用いながらお話しされました。ご自身の過去の苦しい経験やカミングアウトまでの葛藤、手術を受けることを決断された経緯についてのお話は、生徒にとっても私たちにとっても、心に深く残るものであったと思います。日本では７．６％（１３人に１人）の方が、ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）であり、身近な存在であることを強調されていました。まとめのお話の中で、私たちに「多様性（違い）を認め合える人になろう」「他者に対して少しだけ配慮できる人になろう」「『ありがとう』をいつも言える人になろう」というメッセージをいただきました。

私たち人間は誰一人同じではありません。容姿も異なれば、性格も異なりますので、性的指向（恋愛対象の性）や性自認（自分の性別の認識）が他の人と異なっても何もおかしいことではありません。一人一人が違うことをよさとして認め、大切にしていくことで、誰もが幸せに生きていくことができます。違うことを理由に、差別したり、いじめたりということは絶対にあってはいけません。これからも、人権教育の学習を進める中で、生徒も私たちも人権感覚を磨き、高めていきたいと思います。

※「ありがとう」を伝えていくことは、本校の生活のキーワードと学校教育目標の一つになっています。「ありがとう」を伝えることは、その人のよさやその人のかけがえのない存在を認めることになります。躊躇することなく、いつでも素直に伝えていける人になりたいですね。

＜地域の方との交流挨拶運動＞　～生徒会の取組の成果が着実に表れています～

生徒会役員の皆さんが、飯沼自治会の皆さんと一緒に、朝の挨拶運動を行ってくれました。自治会の方々は、地域の子どもたちが誰とでも元気に挨拶を交わし、積極的にコミュニケーションを図ってもらいたいという願いから運動を行っていただいています。本校の生徒会役員の皆さんも、全校生徒に同じ願いをもって行ってくれていることに感謝しています。これからも、ぜひ継続していってもらいたいと思います。

一昨年度よりも昨年度、昨年度よりも今年度、「声は大きくなくても会釈してくれる生徒が多くなった」「こちらから挨拶するより先に挨拶してくれる生徒が多くなった」「目を見て挨拶してくれる生徒が多くなった」ことを私は感じています。私たち職員も笑顔で元気に朝の声掛けをしていますが、生徒会の取組も着実に成果が表れています。生徒会の取組で、学校をもっと元気にしていってほしいです。

＜ご連絡・お願い＞

現在、上小地区の小中学校では、講師の先生を募集しています。教員免許をお持ちでご希望の方が、ご親族の方やお知り合いの方にいらっしゃいましたら、ご紹介いただきたいと思います。上田市立丸子北中学校の校長（川口）または教頭（小林）へご連絡ください。よろしくお願いいたします。

裏面に、長野県教育委員会が発行しているチラシ「信州の先生になろう」も付けましたので、ご覧ください。